

2023年7月11日

各位

三井住友信託銀行株式会社

Copenhagen Infrastructure V への出資について

三井住友信託銀行株式会社(取締役社長:大山 一也、以下「当社」)は、先進国を対象とした再生可能エネルギー関連事業を主要な投資対象とする Copenhagen Infrastructure V(以下「本ファンド」)へ有限責任組合員(Limited Partnership)として出資しましたのでお知らせいたします。

本ファンドは、Copenhagen Infrastructure Partners(代表者:Jakob Baruël Poulsen、以下「CIP」)が運用資産総額120億ユーロ(約1.8兆円)を目標に、洋上(浮体式・着床式)・陸上風力、太陽光、蓄電池や送電線などの再エネ関連事業投資を OECD 諸国で行う投資ファンドです。その中でも浮体式洋上風力について、CIP はスコットランド、イタリア、韓国、米国など世界各地で同事業の計画・推進を行っております。

当社は、昨年4月にグリーンアンモニア等の脱炭素技術を対象にした Copenhagen Infrastructure Energy Transition Fund Iにも出資しており、CIPが運用するファンドへの出資は本件で2件目となります。

当社は、脱炭素を初めとする社会課題の解決に資する事業や企業に対し、2030年度までに累計5,000億円の投資を実施し、社会課題解決型の資金循環を促していく、インパクトエクイティ投資に取り組んでおり、本件もその一環として取り組んだものです。今後もサステナブルな社会の実現に向けて、CIPをはじめとするグローバルな海外金融機関との連携を幅広く強化・推進していくとともに、当グループが国際的な事業経験から得たプロジェクトファイナンス組成ノウハウなど、多彩な専門性を生かしながら、ESG/SDGs分野での課題解決に貢献していきます。

【本ファンド概要】

名称	Copenhagen Infrastructure V SCSp
初回クローズ	2023年6月30日
設立国	ルクセンブルク
無限責任組合員(GP)	Copenhagen Infrastructure V GP S.à r.l.
ターゲットファンドサイズ	120億ユーロ(上限160億ユーロ)
投資対象	OECD 諸国における再生可能エネルギー関連事業
当社出資契約締結日	2023年6月30日

< Copenhagen Infrastructure Partners (CIP) >

CIP は、2012年にデンマークで設立された再エネ関連事業投資に特化したファンドマネージャーで、運用資産は約190億ユーロ(約2.9兆円)と、再エネ分野では世界最大級の規模を有しています。同社は、カーボンニュートラルに向けた世界の再エネ事業積極拡大の流れを踏まえ、現在130GW程度の再エネ関連事業のパイプラインを保有し、今後10年間で運用資産を1,000億ユーロ(約15兆円)まで拡大する計画を掲げています。

以上